

令和三年（ワ）第4■1号 損害賠償請求事件

原告 愛犬の飼い主
 被告 ペラブアペットケルヌッケ
 代表者名 メリユミ ギウセコ (院長)

証拠説明書

令和四年1月12日

スゼアキ地方裁判所ネミデ支部民事部1B係御中

原告

愛犬の飼い主 印

符号番号	標目 (原本・写しの別) (甲1-Aの場合は甲1の枠内に【A】と記す)	作成年月日	作成者	立証趣旨	備考
甲1	ペラブアペットケルヌッケの室像物【A】WEB【B】【C】 ペックグ画のジ動画 写し	令和二年8月	被告病院のイ ンターネッ ト上に存在す るSNS画像、 動物病院用 WEBページペ	ミテチヨシタリ カにヨるトに ミシグンが ケ一ジ犬が 傷つここで 不自然。動 ことの物 院用部は の重アッ なっ と。	院かのたあ に誰犬つが 意の愛切いこ 故内がを疑る
甲2	平成26年1月31日の縫合手術の領収書と愛犬の傷【A】の負【B】 写し	平成26年10月31日	ペラブアペック ケルヌッケ	ミテチヨシタリ カにヨるトに ミシグンが ケ一ジ犬が 傷つここで 不自然。動 ことの物 院用部は の重アッ なっ と。	院かのたあ に誰犬つが 意の愛切いこ 故内がを疑る
甲3	平成29年6月8日の領収書 写し	平成29年5月30日	ペラブアペック ケルヌッケ	ト付時ミグの 受キ一リウス が引一ッ強 くこ張た	ウイ故犬つと愛反 スル意をけは護 キシに傷た動法 ヲが愛めこ物違 である

甲4の P4	1年の術の 日手時 61合た 23縫っ 成月の行 平0額を カルテ	写し	平成26年 3月1日	ペックマ ブケマ アラセ ラケセ ラケセ ペトミカ	院かのつが に誰犬切いと 意の愛を疑る 故内額たあ たりにががる しト際犬とあ るのでこで チよグジク然 テにン一つ自 ミカミケ傷不
甲4の P15, 19	性形あす 形変で示 変,症を が炎椎と 犬節脊こ 愛関性る カルテ	写し	平成30年 3月2日 8月8日	アルセ ブケマ ラトケ ラトケ ラトケ ペペヌ ペペヌ	弱が骨の 愛犬と ウイミ故犬 つと愛反 ヲとが愛め こ物違 キシチに傷 た動法 スルセ意を けは護 ウイミ故犬 つと愛反
甲4の P16	縫した の耳をし の術を 犬の手 愛合際 カルテ	写し	平成30年 3月1日 4月8日	アルセ ブケマ ラトケ ラトケ ラトケ ペペヌ ペペヌ	行クハン のドズメ の告は一 スで 被為タラ ト 緊にさ41 咬に刻0 に生0が 時3りま 8あ うのた。日 に生0が 時3りま 8あ 伴な待と。日 に生0が 時3りま 8あ を能間こ8 0発0た示 :あ済1 で 血事時た1 83故:し開 7でをが分 出急長れ月 5傷1来診 がか会た 3た。
甲4の P19, 20	愛犬のカルテ	写し	平成30年 3月1日 7月3日	ペックマ アラセ ブケマ アラセ アラセ ラケセ ラケセ ラケセ ラケセ ラケセ ペトミ マケメ	臓い分た 検の 肝お部る 一た のにうす コっ の回療の 握エた のみ 15回療の 把握エた の度 1のてを め査2
甲4の P22	1に犬 ツれ す 年日愛 ネさ 示 06が ンを を 32チ エ射 と 成月セ ラ注 こ 平1ミ がク た カルテ	写し	平成30年 3月1日 2月6日	アルセ ブケマ ラトケ ラトケ ラトケ ペペヌ ペペヌ	能にずが いし 機るら 告飼 な与 肝あわ 被意 投 はでか チ明 同 手 犬害か セ説 の勝 愛障も ミ無 主に
甲5	診 断 書	写し	令和元年 9月17日	B病院の担当 医	るに け畜 にお患 の 当院告 原 治療 方原 告

			日		対する治療	に事イーンをる愛 畜食・オコトす、持病 患し法フドン底との の対療ンムセ徹こ犬
甲6	平成30年2月の領と帳 収書【A】の手帳 おくり【B】	写し	平成30年2月1日 7日	ペラブアペック トケルヌック	了時上分にこ 終計村足うた 間会の不よれ 時の付にうさ 業際受耶払か 営間に美を急と	ハンッ ルメあと ラスがこ モラトた
甲7	愛犬の耳の縫 合手術をし 際の領収書	写し	平成30年4月1日 8月2日、4月 30日	ペラブアペック トケルヌック	緊にさ うのた 伴な待と を態間こ 血事時た 出急長れ	怪かず、病け療5会まがで のもら日に駆治が、済の半 急にわの時にみ始半をた時 緊我かこ4院込開時計せ6あ あった。
甲8	愛犬の耳の傷 の縫合痕の写 真	写し	平成30年4月1日 8日	愛犬の飼い主	ペラブアペック トルヂ技術不足 ミセチはあること	縫い方で、跡た 縫雑り、残と
甲9	平成30年1月26日の 診療時のシー ンを描いた絵	原本	平成30年12月	愛犬の飼い主	1のマのをチたで当 年日タ時言セつた。担 306療発ミと異と付ヒ 2チ診、ががこ受キ 成月セの為す告動るのチム 平1ミカ行示被行あ日はウ ケムあシタエもみか た。ウでたウの姿もみか	動士いくて姓ツギニウヲの加た日ては の護はよし旧ゲアとキシ付い当しか 頭看絵も忘たク現)ムキルも描、務た 冒物のつ対いス(ヲニスイ絵しが勤い 不
甲10	平成30年1	写し	平成30	愛犬の飼い主	ミセチは注射	私は11

					ないこと	
甲17	ペットケルA病犬と ラブA病犬の アヌ病の投薬表 ペックヌ病の数値	原本	令和三年	愛犬の飼い主	ペックヌ病の数値が急上昇した。アラレたこと。 ラブA病犬の投薬表 アヌ病の数値が急上昇した。アラレたこと。 ペックヌ病の数値が急上昇した。アラレたこと。	のよう投準0つの7下こ 院にエク基1な臓がた 病療ラッ後のに肝値にた B治りネ与値倍た数倍がと
甲18	B病犬の検査結果【A】 B病犬の検査結果【B】	写し	令和元年7月1日	B病院の担当医	病を診基礎る低汁炎 気診断基礎甲下う の療。疾状につ 主初原患腺よ滞 原日因で機る性 因にはあ能胆肝	もたのいとてB担初確 月きぢま断つ、のは的 かてせい診なり院医に診 何診ミあな異お病当日に
甲19	A病犬の結果【A】 A病犬の結果【B】	写し	平成30年10月1日 平成31年1月1日 令和元年10月1日	A病院の担当医	愛犬の病32日に数値た 犬肝診院06ネよ値がこ は疾断で年日ク肝L上 う患。の1のク肝L上 滞あ告成月エ射ののし っで被平1ラ注臓P昇	困0化数病計通 範1悪たAは間 常約のた、へ日 正の倍し値院4院
甲20	B病犬の結果 B病犬の結果	写し	令和元年7月1日～6月24日	B病院	愛犬の病32日に数値た 犬能っで告成月エ射ののし は低滞あ病32ネよ値がこ 甲下性る院06ネよ値がこ 状症、肝断の1のク肝L上 腺、疾断の1のク肝L上	困0化 範1悪値 常約の数 正の倍し
甲21	B病犬の画像 B病犬の画像	写し	令和元年7月1日～6月24日	B病院	ペックヌ病の数値が急上昇した。アラレたこと。 ラブA病犬の投薬表 アラレたこと。	

					日ネのラエシ ネック注射 より胆のの に異物でう に浮遊物があ したたことと	
甲22	ラエネック 投与前後にお げる愛犬が階 段を登れな った動画	写し	平成30年 11月26日 前後二日	愛犬の飼い主	ラエネック 投与後急激 した力ごと	
甲23	抗体検査結果	写し	令和元年 10月1日	A病院担当 A医	愛犬に ン抗とク免 ンコワをこ	院れ体せやに 病そ抗を、も 告はで査にく 被でま検ずむ ワ接き
甲24	ウタエ市愛犬 カード	写し	令和元年 5月24日	B病院の担当 B医	愛犬は 被病弱な 犬えどに にり、実 射れた	部射と 下注」 最「予 欄に猶 記載
甲25	ペラブアペ トケルヌッ のy a h o ロコ口コミ	写し	令和元年 5月2日	投稿者㊦さん	医師が と相治の 手う高と うる	病ジ院。は のビ病る 告はスあ 被院ネで （削除 てる。）
甲26	A病院のG o g l e o m i	写し	令和2年 8月	投稿者多数	A病院は多 の飼いを の飼いを の飼いを	
甲27	犬の名医さん 100人ハン ドブック	写し	平成26年 3月19日 発売	小学館	B病院が優 秀である こと	
甲28	ラエネック を他の病に る使用の院 質の問した の電話通話 録	写し	令和元年 5月	愛犬の飼い主	C病院獣医 D病院獣 師	平成30年 11月に被 行射手違 が注の間 たそは つと法 い

				ちづき耳鼻咽喉科【C】	になったこと。	
甲34	医療機関，大産検 学，農林水産 省，医薬品 検査機関，プラセンタ ，学会への 質問状と回答	写し	令和2年 2月1旬	原告作成の質問状【A】，B型肝炎入りラエックについてわしいと告発したH（人間の病院医師の）回答【B】，計10大医学部【C】，農林水産省動物医薬品検査所【D】，一般財団法人日本胎盤臨医学会（独）医薬品医療機器総合機構（PMDA）の回答【E】	クック，タシに 績，ス一詳関 ッ実ンデに機 ン用デ用学機 エ使ビ作薬専 ラのエ副をい 求め	大ラッ用な 系のネ使が 医でンの績 獣学エク実 いこ
甲35	一般財団法人 日本胎盤臨 医学会（独） 医療機器（PMDA） 提供のク副 安全性と関 データ	写し	令和2年 2月1旬	一般財団法人 日本胎盤臨 医学会（独） 医療機器（PMDA） 【A】 品医療機器（PMDA） 【B】	犬に 犬エエ存と人 ラの害生 ラのはこ るクスイ スッソ 対ネデし にンビ在 犬エエ存と人 ラの害生	犬対つヂに のに行セカ 告犬でミマ 原愛したタ ヤン投学 抛こ
甲36	プラセンタ （ラエック） の危険性を 唱え記事	写し	平成29年 8月7日 25年1 1月6日	ちろちろの ブロビ 【A】，ジ ネスナル【B】	プラセンタ （ラエック） がある タッモ性 ンネス陰 クヤメは ンネル危 クヤメは ンネル危 クヤメは	ンは投きな エクにべは ッ犬すでこ ラネ愛与薬 いこ

	ム, G o o g le 口 コ ミ の 点 数 と G o o t g r l e ス ト リ ト ビ ュ ー				【A】 , G o e o g l エ キ 【B】 , テン 【C】	動物のペットケ市と低コオセイ治でと。物のッに院でるフンなり額こ動院ペヌも病てあンコしあ高と	い,院すのバ利セマ在ツの院院在虚の頭てと病接人を「ミタ内ペ視,副内「」がっこ告近他物。にる軽勢,にる心勢化なる被にる建ナ用デカサト姿長長す栄姿在
甲43	ペラブルアペッ トケルヌッケ のG o o g l e 口 コ ミ	写し	令和二年 五月から	投稿者多数	他同あ診が市と評と。	もが誤ス。院低こに害,ミと病てる畜被と療こ他しあ患のこ治いの較で同様のや多内比価	同セりめ注れ」 とミよ痛るさ④注 犬ににをけを「注 愛様デ犬つ射た氏
甲44	ペラブルアペッ トケルヌッケ のG o o g l e 口 コ ミ とめた表	原本	令和二年 五月から	愛犬の飼い主	他同あ診が市と評と。	もが誤ス。院低こに害,ミと病てる畜被と療こ他しあ患のこ治いの較で同様のや多内比価	同セりめ注れ」 とミよ痛るさ④注 犬ににをけを「注 愛様デ犬つ射た氏
甲45	ウタエ警 署 カビユス ヤ エセコ再 度 刑事と 際 の 談し た 声 ファイル	写し	令和元年 8月6日	愛犬の飼い主	愛犬を()が被害方()再訴相否	同様の「お告なきを」が拒	
甲46	ウタエ警 署 カビユス ヤ エセコ再 度 刑事と 際 の 談し た 声 ファイル 文字起こし	原本	令和元年 7月	愛犬の飼い主	愛犬を()が被害方()再訴相否	同様の「お告なきを」が拒	

甲57	被告病院のバーベキュー会の動画	写し	令和の元和の頃、今年二投稿	動物ラブル投稿者名 メリユミ動物ラブル投稿者名 病院、ペット、メリユミ動物ラブル投稿者名	長間が院長とで、あ 院の威厳が人 ミとが院威威人 ユ下離、的るな リ距離と庄あ福こ メとにこ高で裕る	たフお医スの係な しッ数獣、フ関くと 席タ多、ッ間よこ 欠スもり師タ人がい
甲58	被告病院、ペットでラブルアペックの愛犬の能治療における診療明細書	写し	平成30年1月27日 平成30年11月26日	ペラブアペックトケルヌック	返金を求めるため、治療費28,958円の内訳	肝臓に5回の診察費
甲59	ペットの医療過誤に関する裁判事例紹介	写し	令和三年4月1日 令和三年9月17日	アミ・インシュアターナル事務【A】、nakasaito【B】、朝日新聞デジタル【C】	大阪地裁平成31年1月13日判決、大量悪判の令、で医 大9年の判薬と死亡他判例。9月裁た 9日の薬と死亡他判例。9月裁た 化、例、和名古こ起療過誤裁判	被告の平成31年2月に大し悪化の例 病成16日と与用の同 告平年2愛量た薬化の例

